

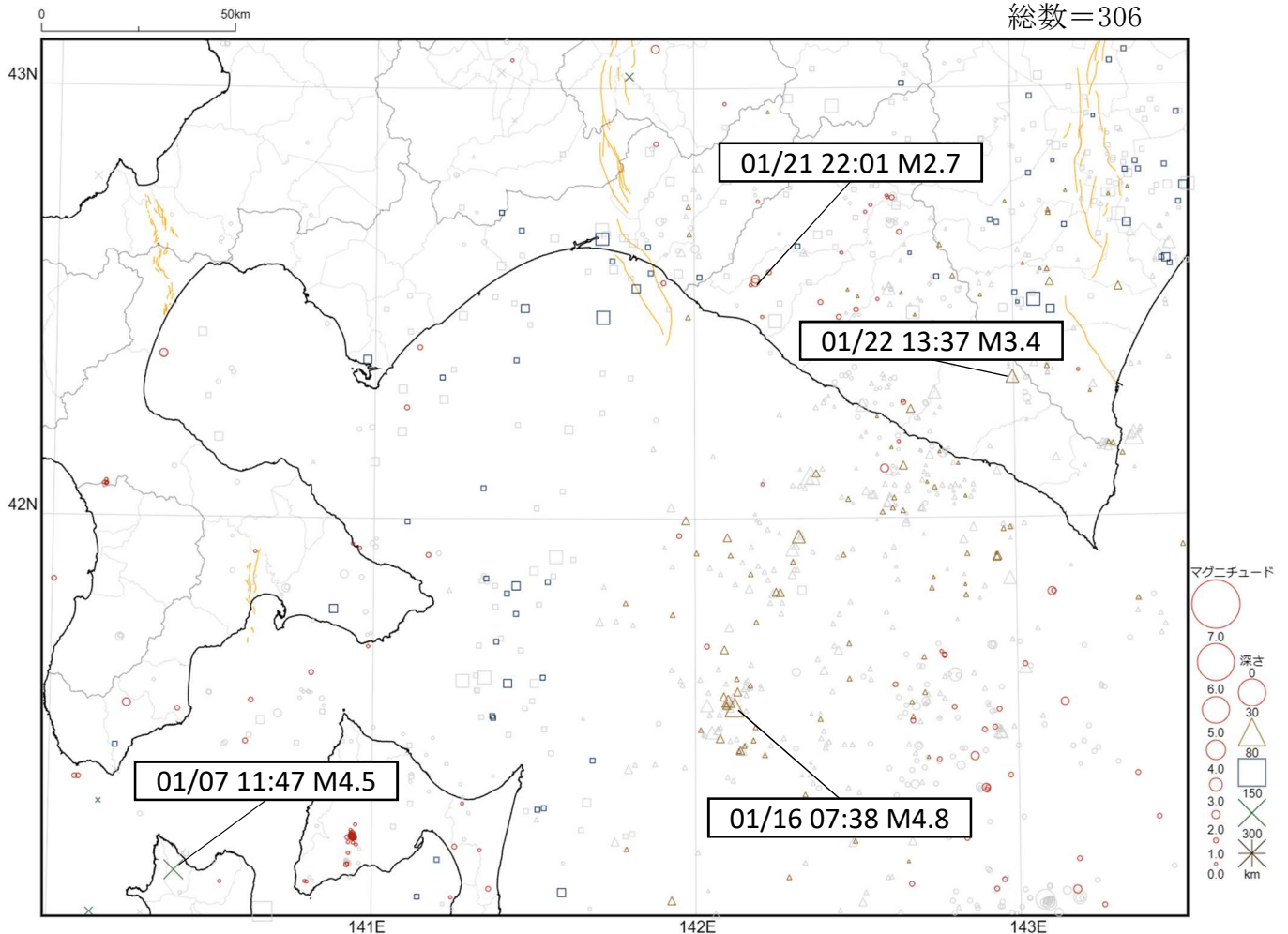
胆振・日高地方の地震活動図

2025年1月

室蘭地方気象台

震央分布図

総数=306



地震概況（2025年1月）

この期間、胆振・日高地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は4回（12月は5回）でした（「胆振・日高地方で震度1以上を観測した地震の表」参照）。

7日11時47分、青森県津軽北部の地震（M4.5、深さ161km）により、安平町で震度1を観測しました。

16日07時38分、青森県東方沖の地震（M4.8、深さ53km）により、胆振・日高地方で震度1を観測しました。※情報発表に用いた震央地名は「浦河沖」です。

21日22時01分、日高地方西部の地震（M2.7、ごく浅い）により、日高町で震度1を観測しました。

22日13時37分、日高地方東部の地震（M3.4、深さ53km）により、浦河町で震度1を観測しました。

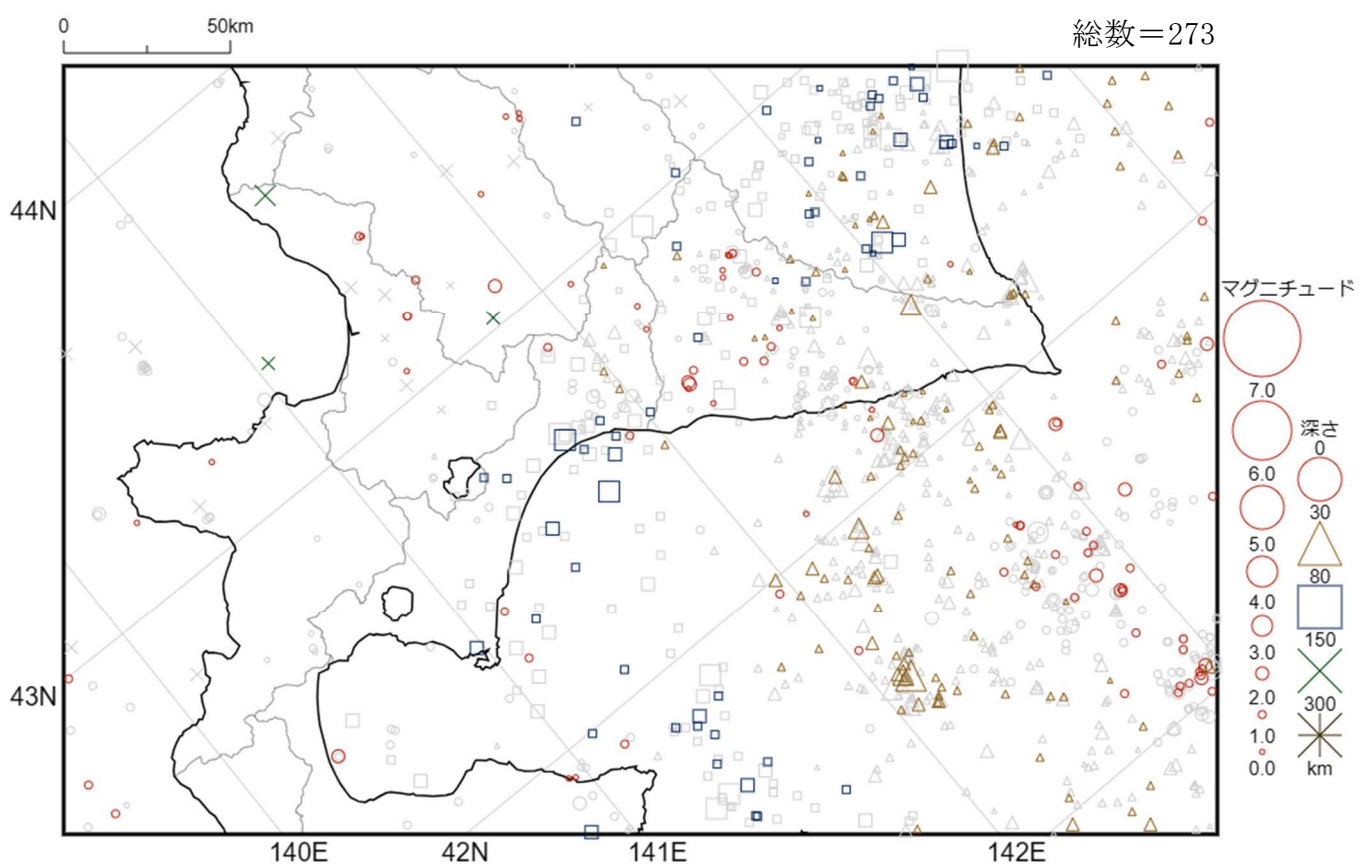
この活動図は、室蘭地方気象台のホームページに掲載しています。

<https://www.data.jma.go.jp/muroran/>

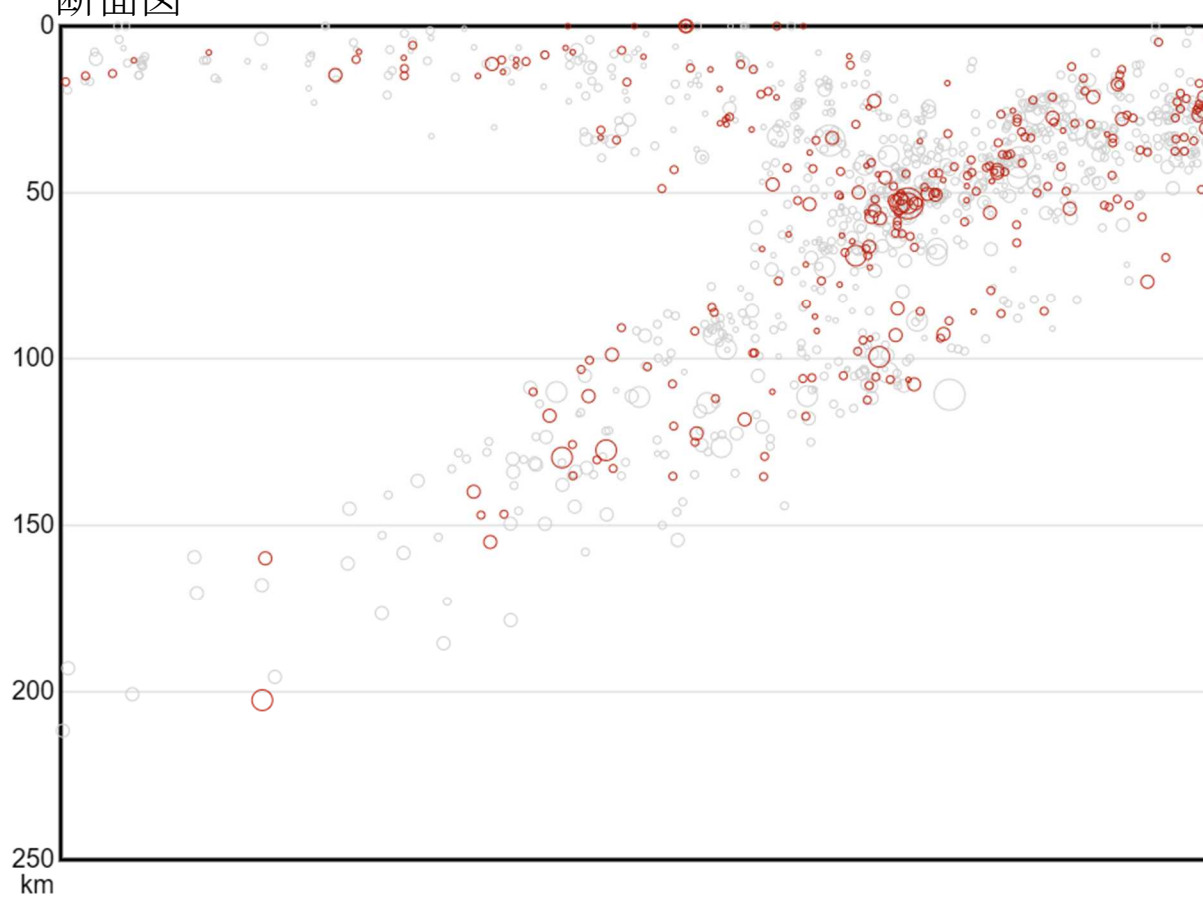
この資料に関する問い合わせ先 室蘭地方気象台 TEL 0143-22-4249

2025年1月

震央分布図



断面図

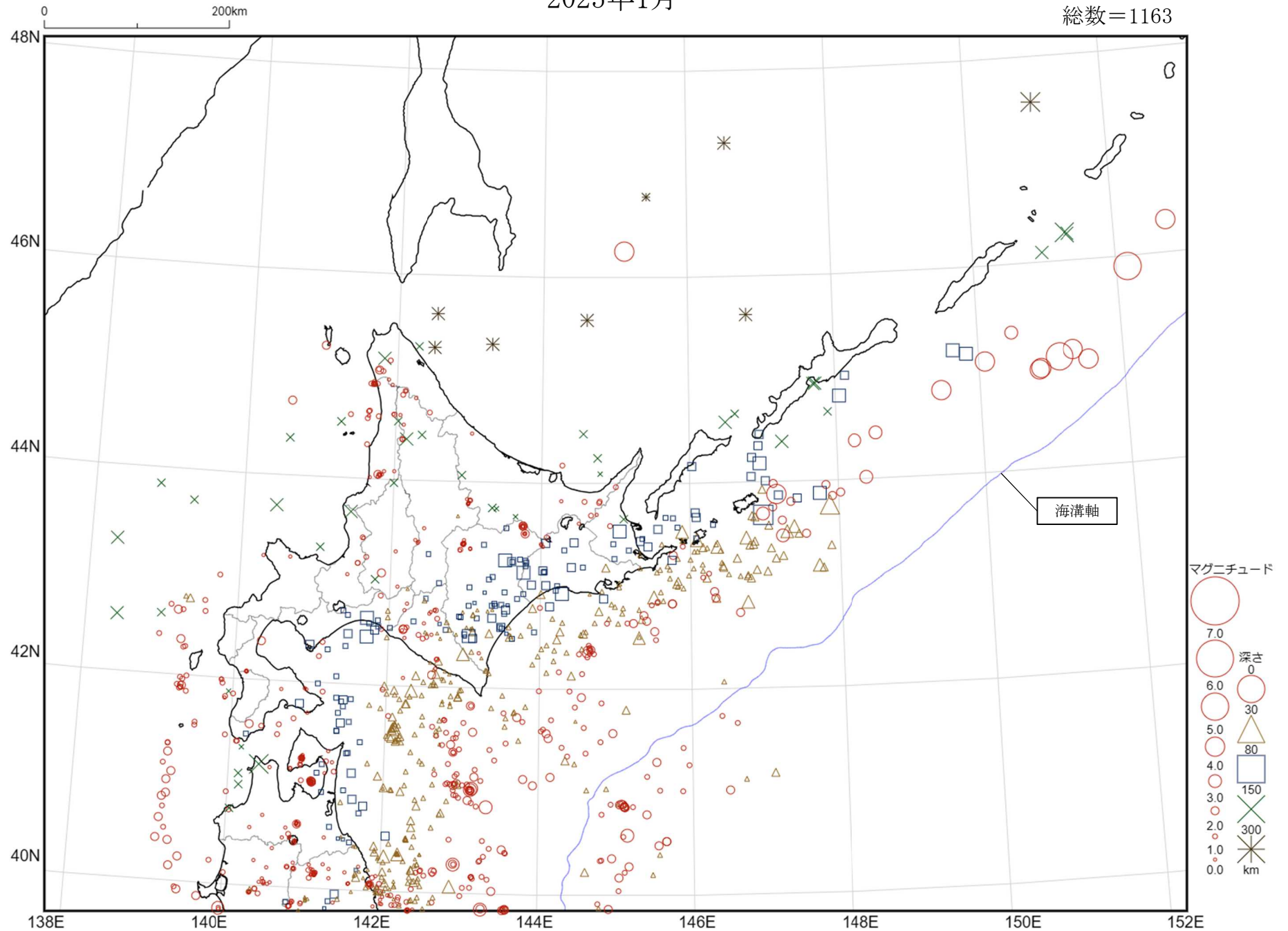


北海道の地震活動図

震央分布図

2025年1月

総数=1163



胆振・日高地方で震度1以上を観測した地震の表 (2025年1月)

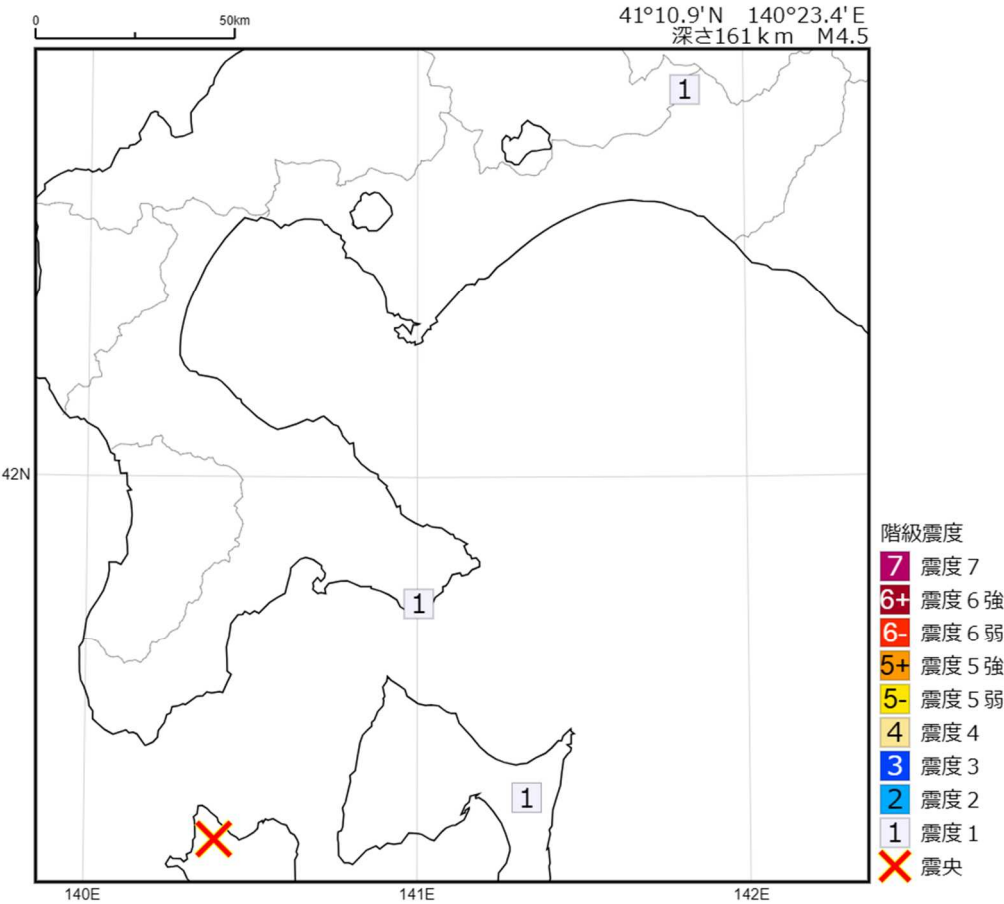
	年 月 日 地方	時 分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯 (N)	東経 (E)	深さ (k m)	規模 (M)
1	2025年 1月 7日 胆振地方	11時47分 震度1	青森県津軽北部 安平町追分柏が丘*(05)	41° 10.9' N	140° 23.4' E	161 k m	M4.5
2	2025年 1月16日 胆振地方 日高地方	07時38分 震度1 震度1	青森県東方沖 胆振伊達市梅本(06) 胆振伊達市大滝区本町*(06) 壮瞥町滝之町*(07) 苫小牧市末広町(05) 登別市鉾山(07) 登別市桜木町*(06) 白老町竹浦(11) 厚真町鹿沼(07) 安平町追分柏が丘*(05) むかわ町松風*(10) むかわ町穂別*(05) 日高地方日高町門別*(06) 新ひだか町静内山手町(07) 新ひだか町三石旭町*(07) 浦河町潮見(10) 浦河町築地*(07) 様似町栄町*(11) えりも町えりも岬*(14)	41° 33.8' N	142° 07.2' E	53 k m	M4.8
3	2025年 1月21日 日高地方	22時01分 震度1	日高地方西部 日高地方日高町門別*(12)	42° 32.9' N	142° 11.5' E	0 k m	M2.7
4	2025年 1月22日 日高地方	13時37分 震度1	日高地方東部 浦河町潮見(07)	42° 19.6' N	142° 59.7' E	53 k m	M3.4

*のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。
()内の数値は0.1単位の詳細な震度(計測震度)の小数点を省略して表しています。

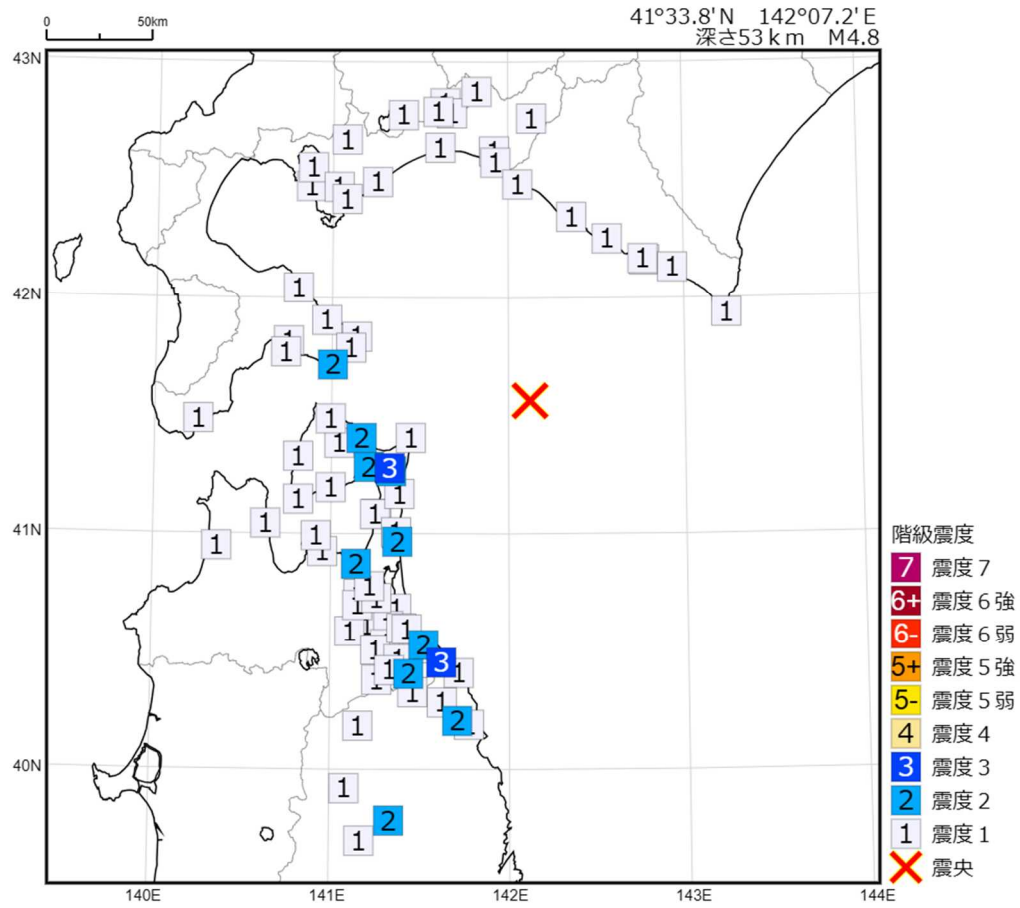
計測震度と震度階級の関係

計測震度	～0.4	0.5～1.4	1.5～2.4	2.5～3.4	3.5～4.4	4.5～4.9	5.0～5.4	5.5～5.9	6.0～6.4	6.5～
震度階級	0	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7

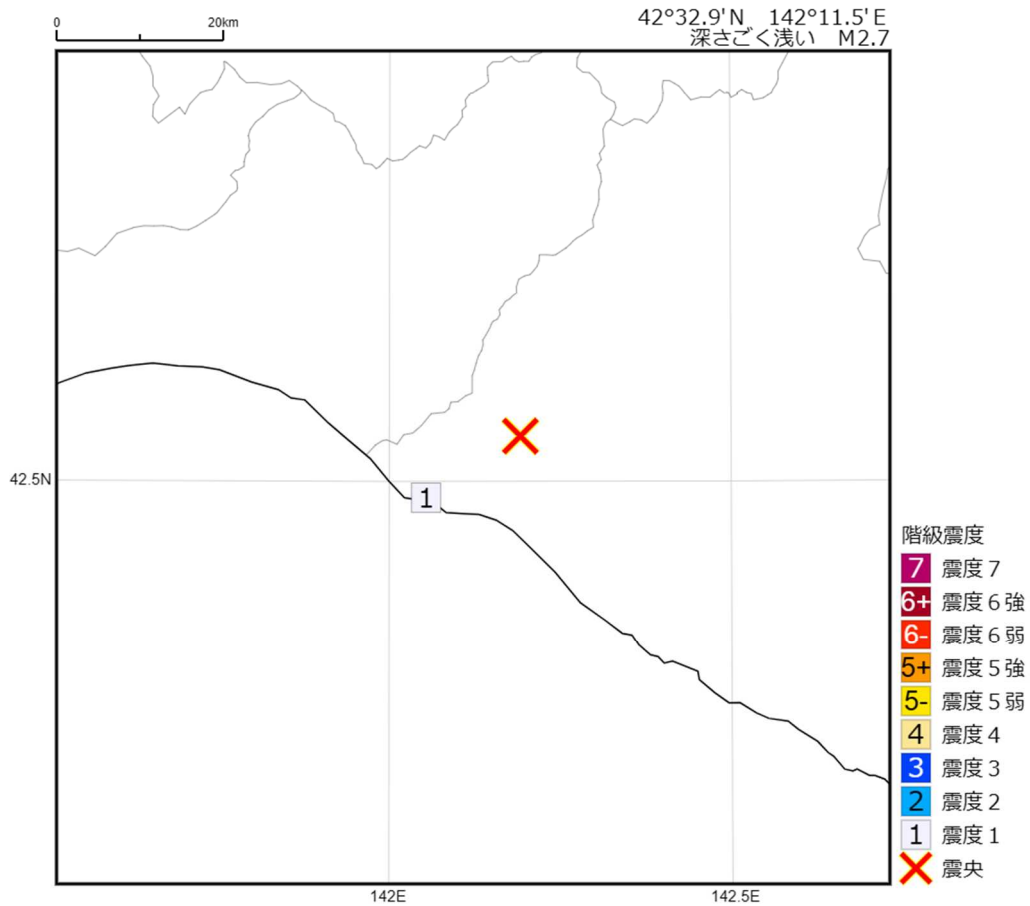
2025年 1月 7日 11時47分 青森県津軽北部の地震の震度分布図



2025年 1月16日 07時38分 青森県東方沖の地震の震度分布図



2025年 1月21日 22時01分 日高地方西部の地震の震度分布図



- ・本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
- ・本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。
- ・図中橙色の線は、地震調査研究推進本部が地震発生可能性の長期的な確率評価を行った主要活断層を表します。
- ・過去の地震と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。
- ・本資料中の地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号平29情使、第798号）。

【防災メモ】

～異常震域～

一般に、地震の揺れは震源に近い場所ほど強く、遠い場所ほど弱くなります。しかし、震源が非常に深い地震（深発地震）の場合、震源の真上ではほとんど揺れないのに、震源から離れた場所で揺れを観測することがあります。この現象を「異常震域」と呼びます。

日本周辺では、陸のプレートの下に海洋プレートが沈み込んでいます。この海洋プレートと陸のプレートの間には地震波が減衰しやすい領域があるため、沈み込んだ海洋プレートのかかなり深い場所で地震が発生すると、地震波が減衰しにくい海洋プレートを通して地震波が伝わる太平洋側で震度が大きくなることがあります（図1、図2）。

特徴的な震度分布のため「異常震域」と呼ばれますが、発生した地震自体が異常というわけではありません。なお、異常震域を生じるような深発地震でも、地震の規模が大きくなれば強い揺れによる被害を生じることがあります。

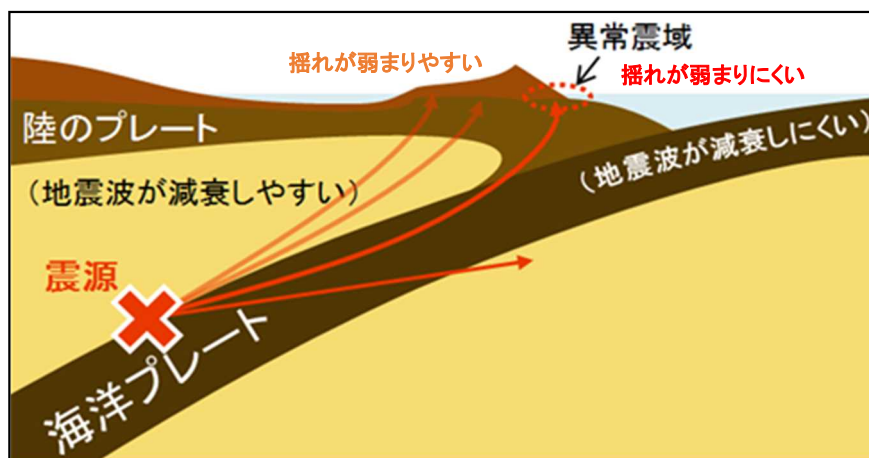
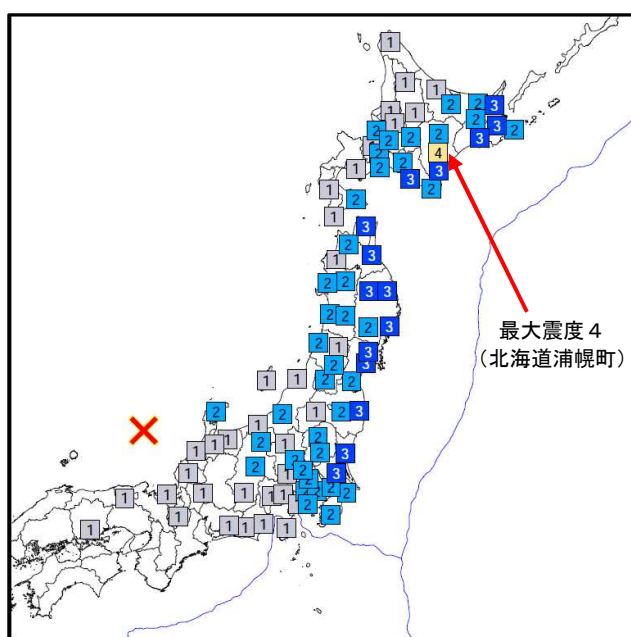
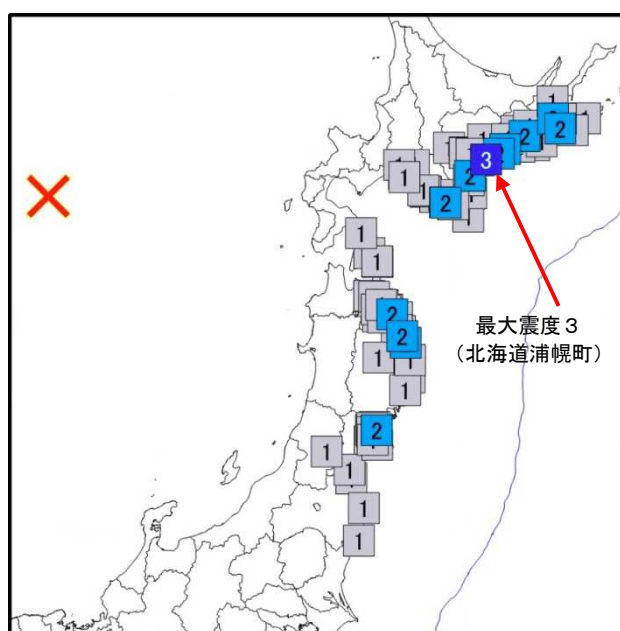


図1 異常震域模式図（断面図）



京都府沖の地震の震度分布図

(2007年7月16日 M 6.7 深さ374km)



日本海北部の地震の震度分布図

(2023年6月28日 M 6.3 深さ518km)

図2 異常震域の事例（×印は震央、数字は震度を示す）